平成 30 年 7 月豪雨における宇和島市内の保育園の被災と災害対応

徳島大学環境防災研究センター　正会員　○中野　晋
香川大学地域強靭化研究センター　非会員　高橋　真里
徳島県県土整備部　非会員　中内　正和

１．はじめに

平成 30 年 7 月豪雨，いわゆる西日本豪雨では各地で深刻な被害をもたらしたが，愛媛県宇和島市では吉田町を中心とした約 350 カ所の土砂災害や中小河川の氾濫が生じ，12 名（内関連死 1 名）が犠牲になっている．特に 7 月 7 日 6～7 時の 1 時間に宇和島 49mm，吉田 74mm，奥南 96mm と猛烈な雨となり，この時間に斜面崩壊，河川の氾濫が相次いでいる．本報では災害時にも休園することが難しい保育園に焦点を絞り，被災地における保育所の災害対応についてインタビュー調査を行った結果を中心について報告する．

２．調査方法

2018 年 11 月 8・9 日に宇和島市保健福祉部福祉課職員と U1～U5 保育園長等を対象にインタビュー調査を行った．聞き取り内容は，①事前の防災対策や被災経験，②被災状況，③災害発生時の緊急対応，④保育再開の状況，⑤今後の課題などである．保育園訪問時に浸水痕跡あるいは証言をもとに浸水状況を確認した．各保育園の位置と被害状況の概略を**図 1** 中に示す．U4 保育園では周辺で多数斜面崩壊が発生し，園庭に土砂が流入したものの園舎の浸水はなかった．U1～U3 保育園は床上浸水が発生しており，これら 3 保育園周辺の浸水状況を確認するため，宇和島，吉田，奥南での観測雨量を用いた平面 2 次元洪水氾濫解析を行った．洪水氾濫解析では内外水氾濫シミュレーションが可能な XOKABE コード（ｿﾌﾄｳｪｱ名：AFREL）を用いた．

図 1　調査対象保育園と雨量観測位置

表 1　気象･洪水警報，避難情報の発表と保育所の主な対応

日	時刻	気象･洪水警報／避難情報	保育園の対応
5	9:14	大雨（土砂災害）警報	
6	4:25	土砂災害警戒情報	
		市災害対策本部設置	
	4:49	洪水警報	
7	6:00頃		U3保育園は降雨と冠水の状況から休園を決定し，連絡網で連絡
	7:00	避難勧告（市内全域の土砂災害警戒区域等）	U4保育園は保育園周辺で土砂災害が発生している旨の連絡があり，自宅待機を連絡網で連絡
	7:10		U1保育園では冠水する中，職員2名が登園．園長に連絡して休園を決定し，手分けして保護者に連絡．
	7:30		U2保育園では冠水する中，職員2名登園．登園後に休園を決めて連絡網で連絡
	15:49	洪水警報解除	
8	5:50	大雨特別警報（土砂災害）	
	6:10	洪水警報	
	14:50	大雨特別警報（土砂災害）解除	
	14:50	洪水警報解除	
～12			できるところから12日までに再開

３．調査結果

表 1 に宇和島市の気象・洪水警報，避難情報の発表状況と保育所の主な対応についてまとめている．宇和島市では 7 日 7 時に土砂災害の危険性の高い地区を対象に避難勧告が発令された．保育所では早くから登園してくる園児に対応するため，早朝出勤の職員が 7 時前後に出勤しようとするが，この時間帯の猛烈な雨と土砂災害の発生により，困難な状況に直面している．以下では U１～U４保育園の対応について

キーワード　平成 30 年 7 月豪雨，宇和島市，災害対応，保育園，業務継続
連絡先　〒770-8506　徳島市南常三島町 2-1　徳島大学環境防災研究センター　ＴＥＬ088-656-8965

© Japan Society of Civil Engineers

述べる．

1) U1 保育園

この園では保育室が床上 0.15m，調理室が床上 0.5m の浸水被害を受けた．この園の地盤高は近くを流れる広見川の護岸高より，低くなっており，広見川からの氾濫で一気に浸水したものと思われる．この地区は大雨のたびに浸水被害が生じていたため，浸水対策として 2015 年に大浦雨水排水ポンプ場が設置されたが，今回の豪雨ではポンプ排水が追い付かず，ポンプ場も浸水し，排水ポンプが一時停止している．

写真 1　U3 保育園の被災状況（著者撮影）

7 日 7 時 10 分に早朝出勤の職員 2 名が出勤したが，道路冠水のため，園に近づけず，浸水域の手前で停車して徒歩で登園した．職員からの電話で浸水状況を知った園長が休園を決定し，職員で手分けをして，保護者に休園の連絡をした．被害状況より，自園で早期に再開することは困難と判断し，当日午前に福祉課が中心となって代替場所の検討が行われ，市役所の地下会議室を利用して再開することが決定された．

2) U2 保育園

園長と職員 1 名の 2 名が吉田支所の駐車場に車を止め，消防団の誘導で膝上まで冠水した道路を徒歩で 7 時半に登園した．浸水のピークは 9 時半で調理室のみ，約 0.2m 浸水した．11 月 8 日の時点でも各所で明瞭な浸水痕跡が残されており，U2 保育園前の路面冠水は 1.2m 程度と推定された．

登園直後に休園を決定し，保護者会長が連絡網で伝えたほか，登園予定であった保護者には保育主任が連絡した．園長は U5 保育園長を兼務しており，同保育園の保護者会長から園の状況を確認した上で，休園を決定し，こちらも同園保護者会長から連絡網で休園連絡が行われた．なお，出勤途中で道路冠水のため，立ち往生した職員については引き帰らせている．

3) U3 保育園

園長が保育園のある地区に居住しているので，7 日 6 時に降雨と河川水位の状況から休園を決定して，保護者会副会長に休園の連絡を依頼した．この保育園でも保護者会の代表者に連絡をすることで，連絡網を通して，情報伝達を図ることになっている．当保育園は隣を流れる河内川の氾濫により，**写真 1** に示すように床上 0.7m の浸水被害を受けた．ここでの再開は困難と判断して，翌 8 日中に，被災しなかった U5 保育園との合同保育として再開することを決定し，保護者に連絡し，7 月 9 日からは通常保育として再開している．

4) U4 保育園

U4 保育園は保育園の周辺で深刻な土砂災害が発生し，長期間に亘って，通行制限がなされた地区に位置する．7 日は早朝出勤の職員から裏山が崩れそうなので避難するため，出勤できないと連絡があったほか，園長が出勤直前にも土砂災害の発生で園に行く道路が通行できなくなっているとの連絡を受けて，自宅待機とすることを決定した．その旨を保護者会長に連絡をして，連絡網で連絡を依頼している．保育園周辺の被害状況については，園に近づけないためにほとんどわからなかった．8 日に登園し，被害状況と園児の安否確認を行った後，再開方法について検討したが，地区の危険性が高いため，9～11 日は休園とし，12 日から再開することで連絡を行った．

４．まとめ

本調査は西日本豪雨で被災した宇和島市内の保育園の災害対応について聞き取り調査により調べたものである．保育園は休園しないのが前提となっており，各所で被害が発生している早朝に職員が園周辺の状況を確認した上で，休園を決定している．また，甚大な被害の中でもほとんど休むことなく再開しており，被災した際の再開計画（業務継続計画）の作成は保育園にとって重要である．

© Japan Society of Civil Engineers